

日本応用老年学会メールマガジンは、日本応用老年学会会員・関係者にむけて日本応用老年学会事務局が毎月発行しております。

— 目次 —

【1】 ホームページ NEW!

- ・SAG-J 広場のお知らせ
- ・関連出版物・書籍紹介

【2】 朝日新聞連載「古い 十五章」 柴田 博

4. 「遺伝要因」を超える生活環境

【1】 NEW! 2010年4月 ホームページ

●「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン 提案募集のお知らせ」科学技術振興機構社会技術研究開発センター

※詳細はこちら 学会 HP「SAG-J 広場」

<http://www.sag-j.org/community/>

●「平成22年度ジェロントロジー研究助成募集のご案内」

財団法人日本興亜福祉財団

※詳細はこちら 学会 HP「SAG-J 広場」

<http://www.sag-j.org/community/>

●書籍紹介 NEW!

「なぜ、私の歳をきくの？年齢不問社会の提言

※詳細はこちらから 学会 HP「関連出版物・書籍紹介」

<http://www.sag-j.org/books/>

会員の皆さまの情報をホームページでご紹介させていただいております。

【2】「古い 十五章」朝日新聞掲載

日本応用老年学会理事長 柴田 博

4. 「遺伝要因」を超える生活環境 (2008年1月21日 夕刊)

寿命は遺伝によって決まっているのでしょうか。

私たちは35年ほど前、100歳を超える100人余のお年寄りを調べたことがあります。確かに、長寿家系があるという印象を受けたのを覚えています。

前回述べた「限界寿命」は遺伝的に決まっているでしょう。何%の人が、その近くまで生きられるかどうか、つまり平均寿命のことですが、これは環境によって大きく左右されます。

例えば、高血圧の家系の方がいます。でも、食事療法や薬で脳卒中などを予防することができるようになってきています。人間は、様々な遺伝的要因をもって生まれてきます。いろいろな体質があるのです。仮に長生きに対してマイナス要因があったとしても、生活環境の改善や医学の進展でかなり矯正できる

ようになりました。

このことは同時に、次のことを意味しています。

長生きに対してプラスの要因をもって生まれても、生活環境によってそれを打ち消すこともできる——。

戦後、栄養状態の改善や公衆衛生の向上などで日本人の寿命はどんどん伸びました。でも、摂取カロリーが減りつつある昨今の若者の栄養状態をみると、将来が悲観的にみえてきます。

.....

以上

-
- ・ 内容、記事に対するご意見、ご感想、ご要望などは、日本応用老年学会「E-mail : info@sag-j.org 」までご連絡お願いいたします。
 - ・ このメールマガジンは、日本応用老年学会会員・関係者の皆さまに配信しております。配信の停止は「E-mail : info@sag-j.org 」までご連絡お願いいたします。

編集・発行: 日本応用老年学会事務局
(掲載記事の無断転載を禁じます)

日本応用老年学会事務局
〒173-0015 東京都板橋区栄町 35-2
地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター
研究所 自立促進と介護予防研究チーム内
TEL : 03-3471-2370
E-mail: info@sag-j.org
日本応用老年学会ホームページ
<http://www.sag-j.org/>
